

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-137670

(43)公開日 平成5年(1993)6月1日

(51)Int.Cl.⁵

A 4 7 K 17/02
13/00

識別記号

A 7014-2D
7014-2D

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平3-300331

(22)出願日 平成3年(1991)11月15日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社
大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 熊沢 理

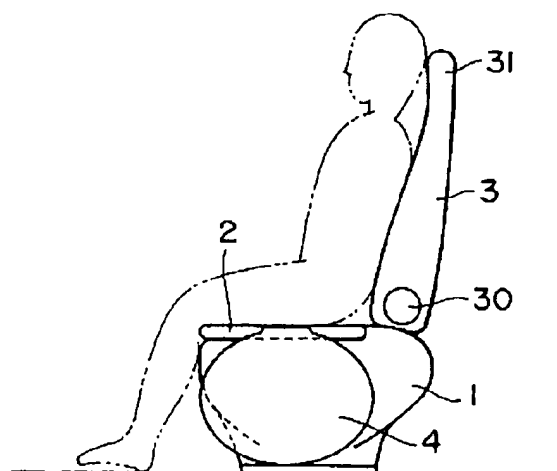
茨城県つくば市春日3-8-11

(54)【発明の名称】 便 器

(57)【要約】

【目的】 便座に腰掛けた状態で身体を後に寄りかからせることができるようにして腰への負担を軽減させ、また、トイレをくつろぎの空間として利用している人にリラックス感を与えることができるようにする。

【構成】 便座2の後方に背もたれ部材3を設け、便蓋4を便座2の側方に開閉自在に設けた。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 便座の後方に背もたれ部材が設けられ、便蓋が便座の側方に開閉自在に設けられていることを特徴とする便器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、腰掛け状態で使用する便器に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、腰掛け式の便器（特開昭63-22932号公報参照）は、便器本体の上に便座をセットし、この便座の上に腰掛けて使用ようになっており、便器に背もたれ部材として使用できるものが設けられているものは見当たらない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このように、上記した従来の便器にあっては、背もたれ部材が設けられていないため、便座に腰掛けた状態で身体を後ろに寄りかからせることができず、自然と身体が前屈みに丸まってしまう、腰に負担がかかってしまうという問題があった。

【0004】また、トイレを一人でくつろぐための空間として利用している人にとっては、便座に腰掛けた状態で身体を後に寄りかからせることができれば、よりリラックスすることができるが、従来では、そのようなリラックス感を得ることはできないものであった。

【0005】本発明は、上記の問題点に着目し、便座に腰掛けた状態で身体を後に寄りかからせることができるようにして腰への負担を軽減させ、また、トイレをくつろぎの空間として利用している人にリラックス感を与えることができるようにした便器を提供することを課題としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、本発明は、便座の後方に背もたれ部材を設け、便蓋を便座の側方に開閉自在に設けた構成としている。

【0007】

【作用】本発明の便器では、便座の後方に背もたれ部材が設けられているため、便座に腰掛けた状態で背もたれ部材に上体をもたれかけさせることができる。従って、上体の重さが背もたれ部材によって支えられる分だけ腰への負担を軽減することができる。

【0008】また、背もたれ部材に上体をもたれかけさせることによってリラックス感が得られ、トイレにいる時間をくつろぐことができる。

【0009】また、便座に腰掛けた状態では、便蓋は開放しておくことになるが、この便蓋は便座の側方に開閉自在に設けられているため、背もたれ部材に上体をもたれかけさせる際に、この便蓋の存在が邪魔になることはない。

【0010】

2

【実施例】以下、本発明の実施例を図面により詳述する。図1は第1実施例の便器を示す側面図、図2は該便器の斜視図である。

【0011】この便器は、上面に排便口が開いた便器本体1の後部に便座2の後縁部が軸着されて、該便座2が前開きするように設けられている。なお、この便座2は、U字形に形成されている。

【0012】また、前記便座2の後方に便器本体1に取り付けられて背もたれ部材3が設けられ、該背もたれ部材3はリクライニングデバイス30によって起立角度の調整ができるように取り付けられている。なお、この背もたれ部材3には、ヘッドレスト31が設けられている。

【0013】また、前記便器本体1の側部には、便蓋4の側縁が軸着されて、該便蓋4が便座2の側方に開閉自在に設けられている。

【0014】次に、実施例の作用を説明する。

【0015】本実施例の便器では、通常通りに便座2を便器本体1の上にセットし、この便座2の上に腰掛ける状態で使用するもので、この場合、便座2の後方に背もたれ部材3が設けられているため、便座2に腰掛けた状態で背もたれ部材3に上体をもたれかけさせることができる。従って、上体の重さを背もたれ部材3によって支えることができる分だけ腰への負担を軽減することができる。

【0016】また、背もたれ部材3に上体をもたれかけさせることによってリラックス感が得られ、トイレにいる時間をくつろぐことができる。

【0017】また、便座2に腰掛けた状態では、便蓋4は開放しておくことになるが、この便蓋4は便座2の側方に開閉自在に設けられているため、背もたれ部材3に上体をもたれかけさせる際に、この便蓋4の存在が邪魔になることはない。

【0018】次に、図3は第2実施例の便器を示す斜視図で、この例では、便蓋が中央から左右の蓋部材50、50に2分割され、その左右の蓋部材50、50の外側縁がそれぞれ便器本体1の左右側部に軸着されて側方に開閉自在に設けられていると共に、該左右の蓋部材50、50が突合せ面51、51を上にした起立状態に開放して保持されるように設けられている点に特徴があり、その他の点は第1実施例と同様になっている。

【0019】従って、この場合には、左右の蓋部材50、50を開放すると、この蓋部材50、50が便座2の側方で起立状態に保持されるから、この左右の蓋部材50、50を肘掛として利用しながら便座2に腰掛けることができ、背もたれ部材3に上体をもたれかけさせることに加えて、両腕を蓋部材50、50による肘掛で支えることによって、より一層のリラックス感を得ることができる。

50 【0020】以上、本発明の実施例を図面により説明し

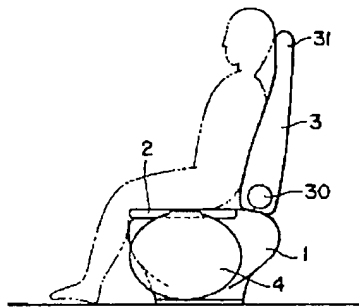
3

たが、具体的な構成はこの実施例に限られるものではなく、本発明を逸脱しない範囲における設計の変更などがあっても本発明に含まれる。例えば、実施例では、U字形の便座が取り付けられている便器を示したが、U字形以外の例えばO形の便座を取り付けてもよい。

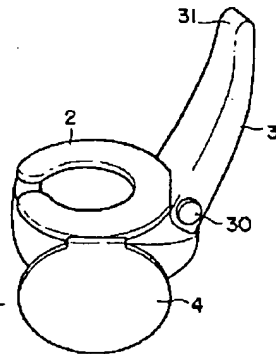
【0021】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の便器にあつては、背もたれ部材が設けられているため、この背もたれ部材に上体をもたれかけさせることができ、上体の重さが背もたれ部材によって支えられる分だけ腰への負担を軽減することができるし、また、リラックス感が得られ、トイレにいる時間をくつろぐことができる。

【図1】



【図2】



4

【0022】また、便蓋が便座の側方に開閉自在に設けられているため、背もたれ部材に上体をもたれかけさせる際に、この便蓋の存在が邪魔になることがないという効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例の便器を示す側面図である。

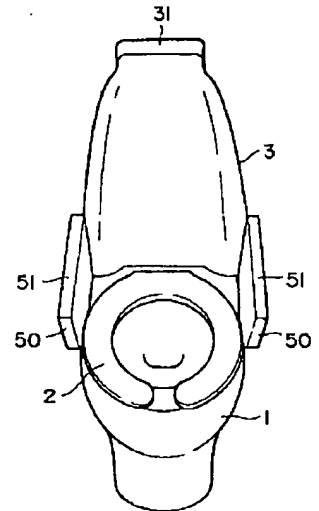
【図2】該便器の斜視図である。

【図3】第2実施例の便器を示す斜視図である。

【符号の説明】

- 2 便座
- 3 背もたれ部材
- 4 便蓋

【図3】



PAT-NO: JP405137670A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 05137670 A

TITLE: TOILET

PUBN-DATE: June 1, 1993

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

KUMAZAWA, OSAMU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

SEKISUI CHEM CO LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP03300331

APPL-DATE: November 15, 1991

INT-CL (IPC): A47K017/02, A47K013/00

US-CL-CURRENT: 4/254

ABSTRACT:

PURPOSE: To reduce burden on the waist and allow a person utilizing a toilet as space of relaxation to enjoy a feeling of relaxation by enabling the leaning of a human body backward keeping the user sitting on a stool.

CONSTITUTION: A back rest member 3 is arranged in the rear of a stool 2 and a lid 4 is so arranged to be opened or closed freely sideways on the stool 2.